思考力・判断力・表現力の育成を目指した学習指導方法の工夫・改善
～各教科・領域等における言語活動の充実を通して～

三島村立竹島小・中学校

1 研究のねらい

学習指導要領及び本校の実態から，全ての教科・領域等において，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせ，その知識や技能を活用しながら，思考・判断したことを表現する言語活動の充実を図る必要がある。そのために，各教科等の目標と指導事項との関連及び子どもの発達の段階や言語能力を踏まえて言語活動を計画的に位置付け，授業の構成や指導の在り方自体を工夫・改善していくことが求められている。

2 研究の概要

(1) 各教科の学習指導の中で，基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ，その知識や技能を活用して，思考・判断したことを表現させる指導方法を研究していく。

(2) 小中が連携しながら，各教科，領域等において，自分の考えを書く活動，自分の考えを発表し，話し合う活動等の共通実践事項を充実させていく。

3 研究の内容

(1) 目指す子ども像の設定

(2) 小中全体での共通実践事項（新聞社への投稿，１分間スピーチ，意見交換会の開催，毎時間の書く活動の設定，教室掲示，乗り入れ授業等）

(3) 「判断基準」の設定と言語活動の充実

(4) ＩＣＴ活用（タブレット端末，Ｆ＠ce ネットの活用等）

4 研究の実際

(1) 目指す子ども像の設定

具体的な取組を進めていくために，それぞれの発達段階に即した目指す子ども像が必要であると考えた。そこで，小学部では低・中・高学年の，中学部では３年間を見据えた，子ども像を設定した。

(2) 小中合同の共通実践

小学校・中学校ともに，「授業の受け方５ヶ条」，「竹島小中学校の学習の進め方」を全ての教室の前面に掲示し，学びに向かう姿勢や心構えについて，学年・教科にかかわらず，一貫した指導を行った。

中学国語へ ← 小学校 2 年担任
数学教師 → 小学校 2 年算数へ

また，小中併設であることの強みを生かし，中学校教員による小学校への乗り入れ授業，小学校教員による中学校への乗り入れ授業（交換授業）を積極的に実施した。今年度は，全職員が実際に参加し，中学校教員の専門性やそれぞれの特技を生かすとともに，「中１ギャップ」の解消にもつながった。

※実施教科：国語，社会，算数，理科，外国語，体育，書写

さらに，新聞社や放送局への投稿も年間を通して取り組み，１月現在８名の子どもが放送・掲載された。表現力の向上はもちろんのこと，本人の成功体験になるとともに，他の子どもへの意欲付けにもつながった。また，全員が投稿することで，ひろば欄を子どもたちがチェックするようになり，新聞に親しむ良い機会ともなった。全員掲載を目指し，現在も継続的に取り組んでいる。

※掲載例：MBC ラジオ放送「私の作文」，南日本新聞社「ひろば欄」

(3)　「判断基準」の設定と言語活動の充実

評価の際に，子どもがどのような表現をすれば目標を達成できたかを判断するための「判断基準」を設定した。そうすることで的確な個に応じた補充指導や深化指導を行うことが可能となった。

また，言語活動の充実を図るために，教科指導の中で，毎時間，必ず自分の思いや考えを書く場面を指導過程の中に位置付けた授業を展開した。その結果，自分の考えを書くことに抵抗がなくなり，書く文量も増えきた。また，自分の考えをもち，立場や根拠を明確にした発言や記述の質が向上する成果が出てきている。

（3）「判断基準」の設定

評価規準	○　これまでに学んだ表現を用いて,好きな人物の紹介文を，文章構成を意識したまとまりのある文で書いたり,相手に分かりやすくスピーチしたりすることができる。
評価の場面	○　展開時における英文を書く場面　　○スピーチする場面
判断の要素	ア　紹介したい人についての記述 イ　文章構成 ウ　既習事項の活用 エ　英文の量 オ　相手に分かりやすい伝え方
判断基準Ｂ	ア　自分の紹介したい人を自分の気持ちも入れて述べている。 イ　導入１文，本文５文，結び１文の構成で述べている。 ウ　紹介文に使われる既習事項を活用している。 エ　紹介文を７文の英文で述べている。 オ　発音や演技（アイコンタクト，ジェスチャー等）に気をつけながら，表現している。
	〔予想される生徒の表現例〕 Hello, everyone.　This is my favorite basketball player.　He is Tabuse Yuta.　He isn't tall.　He can play basketball very well.　I respect him.　Thank you.
判断基準Ａ	（判断基準Ｂに加えて） ○ 英文が充実し，紹介する人について多くの情報を加えている。 ○ 既習事項を活用し，多種にわたる言語材料を使用している。 ○ 疑問文，命令文，代名詞，接続詞，副詞等を効果的に用いている。
	〔予想される生徒の表現例〕 Hello, everyone.　This is my favorite basketball player.　Do you know him?　He is Tabuse Yuta.　He isn't tall but he can play basketball very well.　I want to be like him.　Let's go to his basketball game together.　Thank you.

英語科の「判断基準」の例

(4)　タブレット活用

「読書まつり」や「集会活動」で，プレゼンテーションソフトを活用するなど，様々な場面で活用した。さらに，今年度はＩＣＴの環境整備を重点的に取り組み，Ｗｉ－Ｆｉ環境を整えるとともに，タブレット端末を５台購入し，ロイロノートアプリを活用した指導法の実践を重ねた。アプリを活用することで，子どもの思考を助け，自分の考えを人に伝えることがより効率的となり，子どもからの発信を助け，共有，蓄積して学び合うためのツールとして大いに効果が見られた。

(5)　F@ce ネットの活用（skype も含む）

ＴＶ会議システムを使った交流学習は，子どもの学習意欲や知的好奇心，探究心を引き出す機会となった。自分の考えをどのように表現すれば他の人に分かりやすく伝えられるのかという意識が向上し，子どもの表現力が高まってきている。また，コミュニケーション能力が高まる効果も見られた。

今年度の交流校：三島中学校，附属小学校，悪石島小学校，三島小学校，宝島中学校

5　研究のまとめ

(1)　成果

○　「判断基準」を設定することで，教師も子どもも目標をより明確にもつことができ，適切な評価や補充・深化指導に有効であることがわかった。また，子どもの記述の内容に変化が見られ，表現力の高まりを実感することもできた。

○　単元のまとめで交流学習を取り入れることで，子どもの相手意識が高まるとともに，より主体的に活動する姿が見られた。 また，授業支援ソフトを活用することで，自分自身を客観的に捉えることができ，表現力の向上につながった。

(2)　課題

●　今年度は，それぞれの専門教科における「判断基準」の設定の在り方にとどまった。実技教科をはじめ他の教科における「判断基準」の設定の在り方についての実践が不足している。

●　効果的な ICT の活用場面を研究していく必要がある。

6　今後の取組

上記の課題を解決すべく，今年度取り組んできた ICT の効果的な活用や「判断基準」の設定の在り方などについて，引き続き研究を進めていきたい。また，新たに課題を解決するために必要な資質・能力を明らかにしながら，それを育成する学習指導方法の工夫・改善も進めていきたい。